

平成 28 年度第 2 回兵庫県スポーツ推進審議会 議事録

- 1 期日・場所 平成 29 年 3 月 10 日（金） 10:00～12:00
兵庫県立ひょうご女性交流館 「501」
〒650-0011 神戸市中央区下山手通 4 丁目 18-1
- 2 出席者
(委員 11 名) 山口委員 平川委員 平野委員 倉 委員
吉矢委員 小山委員 鷗木委員 増田委員
永井委員 陳 委員 井原委員

欠席：尾山委員 小林委員 窪田委員 三木委員

(幹事 11 名) ○高永幹事 ○大久保幹事 羽原幹事 ○松下幹事
川由幹事 ○塚本幹事 ○土屋幹事 船田幹事
八木幹事
升川スポーツ振興課参事（陪席）
○住本兵庫県体育協会事務局長（陪席）（○印は代理出席）

欠席：今後幹事 西田幹事 清瀬幹事

(教育委員会) 高井教育長

(事務局) 川崎副課長 岡本主任指導主事兼主幹 長谷川主任指導主事
- 3 開会あいさつ 高井教育長
- 4 委員・幹事紹介 名簿順による委員自己紹介及び幹事紹介
- 5 署名委員の指名 署名委員は、会長の指名により、平野委員、倉 委員に決定
- 6 前回議事録の報告
平成 28 年度第 1 回スポーツ推進審議会における報告事項（「平成 28 年度事業概要について」）及び審議事項（「兵庫県スポーツ推進計画の取組を進めるための方策について」）について川崎副課長が説明し、承認された。
- 7 報告事項
平成 29 年度の事業概要について
① スポーツ振興課に関する事業概要について、八木スポーツ振興課長が報告した。
② 第 7 回神戸マラソンに関する事業概要について、升川参事より報告した。
③ 体育保健課に関する事業概要について、船田体育保健課長が報告した。
- 8 審議事項
(1) 平成 29 年度スポーツ振興団体に交付する補助金について
川崎副課長より、平成 29 年度スポーツ振興団体に交付する補助金の内容について説明し、承認された。
(2) 兵庫県スポーツ推進計画の取組を進めるための方策について
羽原障害者支援課長より、平成 29 年度の障害者支援課の事業概要を報告するとともに、県のスポーツ推進計画の中で障害者スポーツの進め方の方策について、ご審議いただきたいことを説明する。

9 その他の事項

■ 委員の主な意見及び事務局の説明

(1) 「報告事項 平成 29 年度の事業概要について」

[スクールヘルスリーダー派遣事業]

【平野委員】

- カウンセリングの専門の知識をもった臨床心理士等が入られているのか、退職の養護教諭の方だけなのか。

【船田体育保健課長】

- 退職された養護教諭が、経験の浅い養護教諭に指導する形となっている。スクールカウンセラーやソーシャルワーカーについては、義務教育課で派遣をしている。

[ジュニア層を対象としたトップアスリートの特別強化事業]

【鶴木委員】

- 中学生対象となっている特別強化は、競技別なのか、県として育成するのか。

【八木スポーツ振興課長】

- 競技団体から頂いた提案に基づいて競技別に実施する。

[東京オリンピックパラリンピック事前合宿招致]

【永井委員】

- 中央競技団体やJOCと連携して進めていくと思うが、現時点で視察等を受け入れる予定はあるのか。

【八木スポーツ振興課長】

- 県立武道館（姫路）にフランスの柔道チームを招致する方向で、県と姫路市で招致活動を展開しており、パリ事務所等を通じて視察の調整を進めている。

[第7回神戸マラソンの開催]

【永井委員】

- 神戸マラソンも東京マラソンでのコース変更のような演出を考えているのか。また、海外居留者の参加枠について、どのように進めていくのか。

【升川スポーツ振興課参事兼神戸マラソン事務局長】

- コースの検討については、平成 28 年度に「神戸マラソンあり方検討委員会」でも議論しており、それを具体化する中期計画を作成している。その計画では、①第7回大会で港島・ポートアイランド内の周回コースを設けられないか、②第10回大会へ向けて町のにぎわいを含めた場所でのフィニッシュ、記録の出やすいコースを検討すべきである、となっている。

また海外の居住者の参加については、ツアーとのタイアップも視野に入れ、現在計画を進めているところである。

[運動部活動活性化推進事業]

【永井委員】

- 運動部活性化事業で、県の総合体育大会に向けて、子供達に指導できるよう、何とか5月にはスタートしできるよう配慮してほしい。

【船田体育保健課長】

- 外部指導者の派遣については、県単独事業となったので、年度当初から速やかに行うこととなった。

[スポーツ立県ひょうご]

【井原委員】

- 大学や企業との連携を通して、コーディネーターを強化し、スポーツクラブを活性化してはどうかと思う。県としてはどうお考えか。

【八木スポーツ振興課長】

- 「コーディネーター」の設定が非常に難しい。現在大学の先生方にご相談し、大学から各スポーツクラブへつなぐことから始めている。

【小山委員】

- 資金が無くなったことで活動を停止しているクラブがあると聞くと、今後これをどのように立て直していくのか。

【八木スポーツ振興課長】

- 県からの補助金だけでなく、会費を集め、自主的に運営するスポーツクラブへの移行を各地区の連絡協議会や市町担当者連絡協議会で伝えている。また、クラブ統合により、再生した成功例を紹介しながら、スポーツクラブの活動支援をしている。

【山口委員】

- 現在全国 3,500 のうち 800 ぐらいは法人格を取得しているが、クラブマネージャーを置き、3種目以上を実施しているクラブは、スポーツ振興センターの地方助成を受けている。県内で法人格を持っているのは、加古川市、播磨町、日高町である。他のクラブも統合によって法人格を取得しているが、市町の事業を受託できる方向性になるといい。

[事前合宿招致]

【吉矢委員】

- 事前合宿招致の場合、事故や怪我のサポート体制を問題となる。2019 年にはワールドカップラグビーがあり、事前合宿が行われると思うが、どのように進められているのか。

【八木スポーツ振興課長】

- ノエビアスタジアムを会場とした神戸市開催ということで、県も支援をしている。神戸市と淡路市の施設の二か所を公認キャンプ地とし、医療のサポート体制も考慮して申請している。

【陳 委員】

- 姫路がフランス柔道チームの招致活動をしているが、フランス語圏のチームと一緒に招致することは考えていないのか。

【八木スポーツ振興課長】

- もとは姫路出身の「川石酒造之助」というフランス柔道の指導者がおられ、フランス語というよりフランス柔道というご縁があって、招致を進めている。

【平野委員】

- 事前招致で、食という概念を入れてはどうか。ホテルとの提携はどうか。

【八木スポーツ振興課長】

- チームによって、自前で調理スタッフをつけるところもあり、臨機応変に対応したいと考えている。

(2) 「審議事項(1) 平成 29 年度スポーツ振興団体に交付する補助金について」

【小山委員】

- 事務局の原案に賛成するが、スポーツ振興団体に対する交付金は、生涯スポーツを推進する団体に対して、補助金の対象にならないのか。

【八木スポーツ振興課長】

- スポーツクラブ 21 ひょうご全県連絡協議会や関西マスターズスポーツフェスティバル実行委員会に対して補助を行っている。

(3) 「審議事項(2) 兵庫県スポーツ推進計画の取組を進めるための方策について」

【井原委員】

- 障害者スポーツのトップアスリートは、かつてトップアスリートを目指してがんばってきた人たちが、何かのきっかけでハンデをおい、パラ競技に転じた選手が多いように思う。一方、障害者はそういう方だけではないので、参加を促すような掘り起こしをしないといけない。特別支援学校等に理解いただき、地域のスポーツクラブと一緒に活動できる取組が重要となるが、計画はあるのか。

【羽原障害者支援課長】

- 出前講座を開き、実際に見ていただく、一緒に体験していただく、理解していただく、できれば支えていただく。当然、特別支援学校にもご協力いただいているが、実際に一步踏み出していただけるかどうかが大変なところである。

【井原委員】

- 一步踏み出していただく仕掛けとか、計画はないのか。

【増田委員】

- 地域によって学校の先生方が中心になり、障害者スポーツを推進している自治体もある。我々も、特別支援学校の先生・生徒と接点はあるが、特別支援学校の生徒が、非常に重度化しているため、なかなかスポーツに展開していかない。そこで、パラ選手の発掘は、普通校から探すのが現状である。

【山口委員】

- 普通校からの発掘といわれたが、具体的にどう発掘するのか。

【増田委員】

- ロコミしかない。卓球教室に来ていた片足の障害の方が、障害者の卓球大会に出られないかと私どもへ相談があった。一般の方には、情報が行き渡りにくい環境にあると切実に感じる。

【山口委員】

- 今の課題は、パラアスリートが高齢化してきていること。法律が一部改正され、従来よりリハビリ期間が短くなった。そのためリハビリが終わってからスポーツに出会う期間がなくなり、新しい選手がいなくなってしまった。もっと普通校からアスリートを発掘、育成していくような仕掛けをしてほしい。

【倉 委員】

- 全国車いすマラソン大会に集う方々に対し、広い会場を利用した障害者スポーツの楽しさを伝えることはできないか。

【羽原障害者支援課長】

- 車いすの試乗、障害者スポーツの他の競技を知っていただく機会については、前向きに考えていきたい。

【山口委員】

- 小学校、中学校へは、障害者スポーツの紹介をどのようにされているのか。

【増田委員】

- 我々が、学校現場にて出前講座を行った際、東京パラリンピックのことを聞くと、パラスポーツについて知っている子供たちがいる。しかし、学校の先生の中には、パラスポーツであるボッチャについて、「それって何ですか」という声がある。まだ障害者スポーツが知られていないことを感じる。引き続き、障害者団体やボランティア団体と連携して小中学校へ啓蒙活動を進める必要がある。

【山口委員】

- 障害者スポーツ競技団体の中で法人格を取得している団体は。

【羽原障害者支援課長】

- ない。

【山口委員】

- 三重県がふるさとのアスリートを寄付によって支援していく仕組みができた。パラの方も、県全体で、考えていくことを検討していただく。競技団体は、法人格を目指し、市町や県の事業委託を受けるのが、次の方向性ではないかと思う。

【平川委員】

- 一般の競技団体と障害者スポーツ団体が話をする場があるのか、また障害者スポーツ指導者養成講習会等に、一般の学校の先生が受講するシステムを作らないと、現状の課題解決は難しいのではないかと思う。

【羽原障害者支援課長】

- 一般の競技団体とは話ができている。今後、一般の競技団体に障害者スポーツの現状を説明する場を作り、定期的・安定的に支援をいただける関係を作りたい。学校等への働きかけは、教育委員会と相談し、協力が得られるように進める。

【山口委員】

- オリンピック教育にパラリンピック教育が入っているのか。

【船田体育保健課長】

- 現状では入っていない。次期学習指導要領の中で入るように検討されている。

【山口委員】

- 障害者スポーツネットひょうごについて、増田委員、説明をお願いします。

【増田委員】

- 障害者スポーツを推進するため、8年前に立ち上げた。企業との連携は、県の障害者スポーツ協会の方で協定という形になっている。大学との連携では、認定

校が約十数校あるが、その担当の方たちと集まって、具体的な連携を図っている。しかし各自治体に情報センターが、ほとんどないので、どうやって在宅の方へ情報提供をしていくのかが、今の問題点となっている。

【山口委員】

- トップアスリートにおける強化特別拠点の在り方について議論・視察等の結果、海外の先進国は、全て統合、インクルージョンであり、競技団体がナショナルトレセンと一緒にやっている。そこで、日本もNTC及びジスの共同利用可ということで、NTCに工事が入っている。もう一つ、今のNTCの向かい側にパラ仕様の第2NTCを作ることが決まった。

【平川委員】

- 体育保健課・スポーツ振興課には、障害者スポーツの振興事業があるのか。

【八木スポーツ振興課長】

- スポーツそのものについては、スポーツ振興課で行い、障害者スポーツの振興については、県下のスポーツクラブの代表者が集まる全県スポーツサミットにおいて、障害者スポーツの体験コーナーを設け、参加者に振興を図っている。

【鶴木委員】

- 障害者スポーツの事業にある「スーパーアスリート特別強化支援事業」は、どのように進められていくのか。

【羽原障害者支援課長】

- 5名をメダル候補者、25名をパラリンピック出場候補者とし、支援することを考えているが、細部についてはこれから検討していく。

【増田委員】

- 車いすバスケット連盟と県バスケットボール協会は40年間の交流があり、現在、パラ選手が健常者の大会運営に関わっている。障害者はできることもたくさんあるので、さらに参加できる環境を整備していきたい。

【山口委員】

- パラアスリートへのインタビューの結果は、オリンピックアスリートと一緒に練習がしたいという声が圧倒的に多い。アスリートファーストという言葉が出てきたが、これからもいろんな連携を深めていくことが大事である。

11 閉会あいさつ 八木スポーツ振興課長

12 閉 会